

# 平成30年3月期第2四半期 決算説明会

平成29年11月17日

富士石油株式会社



Fuji Oil Company, Ltd. (TSE:5017)





# 次第

- **平成30年3月期第2四半期決算**
- **平成30年3月期通期業績見通し**
- **競争力強化に向けた設備投資**



# 平成30年3月期第2四半期決算



Fuji Oil Company, Ltd.  
<http://www.foc.co.jp/>  
(TSE:5017)

## ドバイ原油価格



## 為替レート (TTM)



- 原油価格は、米シェールオイルの生産回復で下落するも、その後一部産油国への生産上限設定、原油需要見通し上方修正により上昇。期中平均は約50ドル。
- 為替レートは、地政学リスクによる円高局面もあったが、一定のレンジで推移。期末にかけて米国の追加利上げへの期待等から円安基調。期中平均は約111円。

# 石油製品販売量・原油処理量

(単位:千KL)	平成30年3月期 第2四半期	平成29年3月期 第2四半期	前期比 (%)
ガソリン	796	1,004	79%
ナフサ	133	119	112%
ジェット燃料	288	398	72%
灯油	151	107	141%
軽油	631	847	75%
A重油	112	128	87%
C重油	207	394	52%
(内、電力用)	(189)	(357)	(53%)
ベンゼン	74	87	85%
キシレン	123	163	75%
石油ピッチ	167	204	82%
その他	379	415	91%
小計	3,062	3,867	79%
ジョイント・バーター	99	240	41%
<b>合計</b>	<b>3,160</b>	<b>4,107</b>	<b>77%</b>
原油処理量	3,068	3,955	78%
稼働率	73.7%	95.1%	

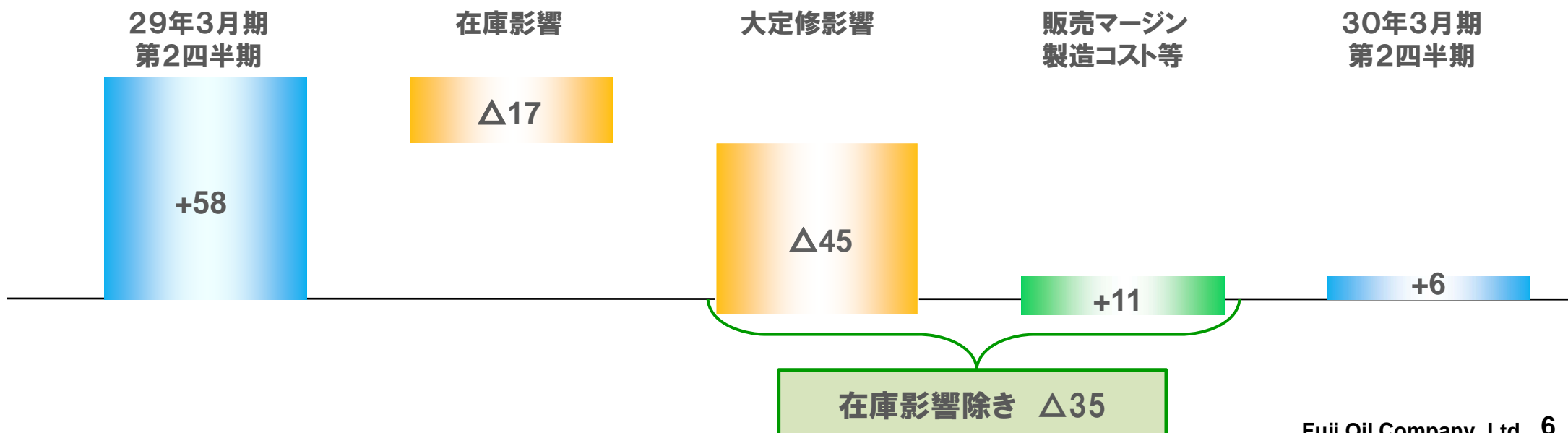
# 平成30年3月期第2四半期 連結決算の概要 **FDC**

(単位:億円)

	平成30年3月期 第2四半期	平成29年3月期 第2四半期	増減額	
売上高	1,732	1,920	△187	△10%
営業利益	6	58	△52	△89%
在庫影響除き営業利益	13	48	△35	△72%
経常利益	1	40	△39	△97%
在庫影響除き経常利益	8	29	△21	△72%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1	31	△29	△96%

## ■ 営業利益の増減要因

(単位:億円)



# 連結貸借対照表の増減概要



(単位:億円)

	平成29年9月末	平成29年3月末	増減額	主な増減要因
流動資産	1,500	1,498	1	受取手形・売掛金 $\Delta 85$ 未収入金 +83
固定資産	1,383	1,385	$\Delta 1$	機械装置等 +61 長期未収入金 $\Delta 55$
資産 合計	2,884	2,884	0	
流動負債	1,634	1,555	78	未払金 +79
固定負債	632	700	$\Delta 67$	長期借入金 $\Delta 32$ 修繕引当金 $\Delta 55$
負債 合計	2,266	2,256	10	
純資産	617	628	$\Delta 10$	利益剰余金 $\Delta 4$ 為替換算調整勘定 $\Delta 6$
負債純資産合計	2,884	2,884	0	

# 連結キャッシュフローの状況



(単位:億円)

	平成30年3月期 第2四半期	平成29年3月期 第2四半期	平成30年3月期第2四半期 要因説明
営業活動によるCF	107	19	税引前利益 0 減価償却費 25 売上債権減少 85 たな卸資産減少 29 未払消費税等の減少 △54
投資活動によるCF	△43	△8	有形固定資産取得 △15
財務活動によるCF	△52	△32	短期借入金純減 △6 長期借入金純減 △67
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	△6	
現金及び現金同等物の増減	9	△27	
現金及び現金同等物の期首残高	135	153	
現金及び現金同等物の期末残高	145	125	



# 平成30年3月期 通期業績 見通し



Fuji Oil Company, Ltd.  
<http://www.foc.co.jp/>  
(TSE:5017)



## ■ 原油価格(ドバイ原油)・為替レート的前提

原油価格  
(ドバイ原油)

為替レート

下期:50ドル/バレル

下期:110円/ドル

## ■ 課題・トピック

- 安全・安定操業による高稼働維持
- 能力を増強した分解装置のさらなる有効活用
- アスファルトピッチ焚きボイラー・タービン発電設備 (ASP-BTG)の本格稼働

➡ 国内トップクラスの競争力堅持

# 平成30年3月期石油製品販売量・原油処理量



(単位:千KL)	平成30年 3月期(計画)	平成29年 3月期	前期比(%)
ガソリン	1,938	2,144	90%
ナフサ	399	291	137%
ジェット燃料	528	724	73%
灯油	706	498	142%
軽油	1,622	1,574	103%
A重油	250	366	68%
C重油	399	638	62%
(内、電力用)	369	567	(65%)
ベンゼン	160	192	83%
キシレン	308	334	92%
石油ピッチ	352	418	84%
その他	732	690	106%
小計	7,394	7,869	94%
ジョイント・バーター	145	431	34%
<b>合計</b>	<b>7,539</b>	<b>8,300</b>	<b>91%</b>
原油処理量	7,183	7,934	92%
稼働率	86.6%	95.6%	

# 平成30年3月期 通期連結業績見通し



在庫影響を除いた営業利益・経常利益のみ前回予想を修正

(単位:億円)

	平成30年3月期	平成29年3月期	増減額
営業利益	71	189	△118
在庫影響除き営業利益	(前回予想57) 74	113	△39
経常利益	48	181	△133
在庫影響除き経常利益	(前回予想34) 51	105	△54
親会社株主に帰属する 当期純利益	46	155	△109

## 営業利益の増減要因

(単位:億円)



# (参考資料)原油価格・為替変動の経常損益への影響額



	基準		
原油価格 1ドル/バレル下落に付き	50ドル	在庫影響	△5.5億円
		石油ピッチ 自家燃料費	+1.5億円
		計	△4.0億円
為替 1円/ドル円高に付き	110円	在庫影響 外貨資産	△2.5億円 △1.5億円
		石油ピッチ 自家燃料費	+0.5億円
		計	△3.5億円

(注) 上記影響額は見通し期間である平成30年3月期下期を対象として試算しています

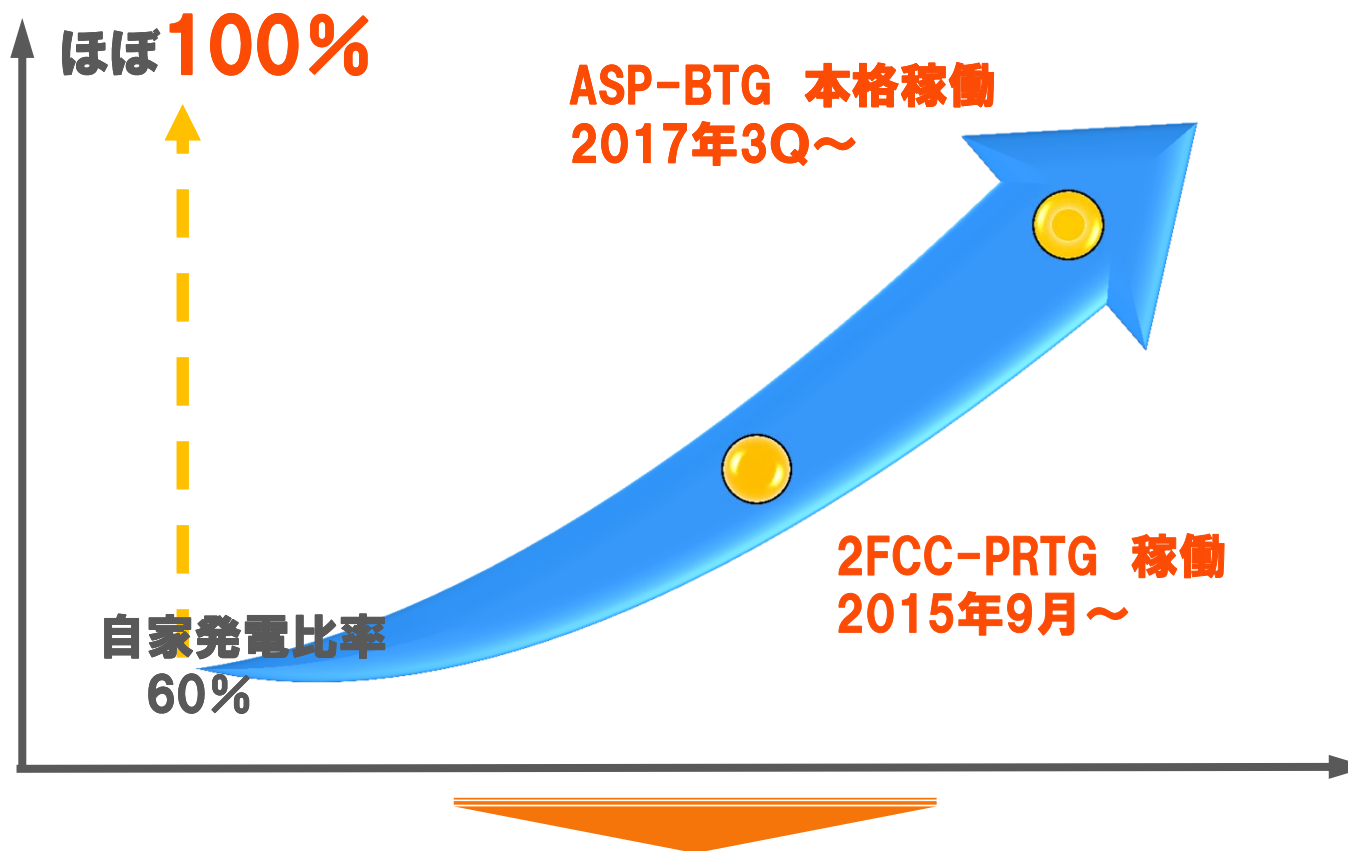


# 競争力強化に向けた設備投資



Fuji Oil Company, Ltd.  
<http://www.foc.co.jp/>  
(TSE:5017)

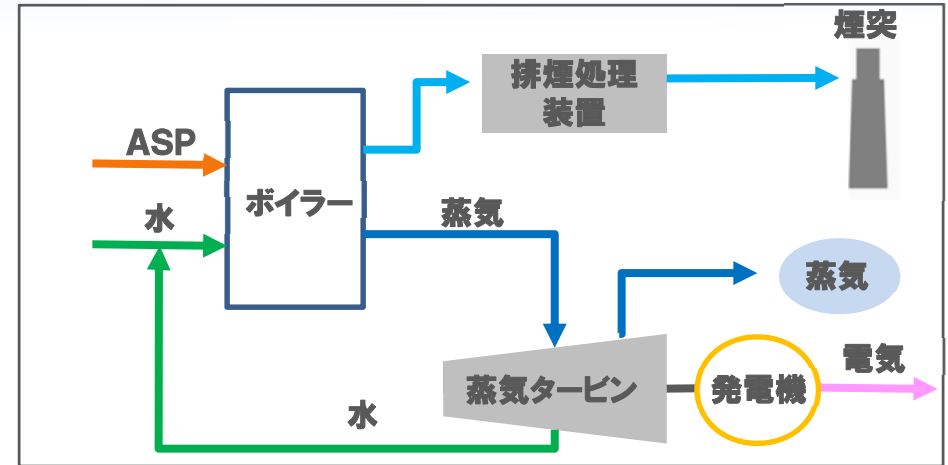
- 第2流動接触分解装置パワーリカバリータービン発電設備(2FCC-PRTG)、アスファルトピッチ焚きボイラー・タービン発電設備(ASP-BTG)の導入で、自家発電比率はほぼ100%へ



大幅な用役費の削減によるコスト競争力強化

## 設備概要

- 設備完工 : 2017年2月
- ボイラー : 最大蒸気発生量 295 t/h
- 燃料 : アスファルトピッチ(ASP)  
最大消費量 22 t/h
- 発電出力 : 36,000 kW  
(定格出力: 40,000 kW)



## 経過・スケジュール

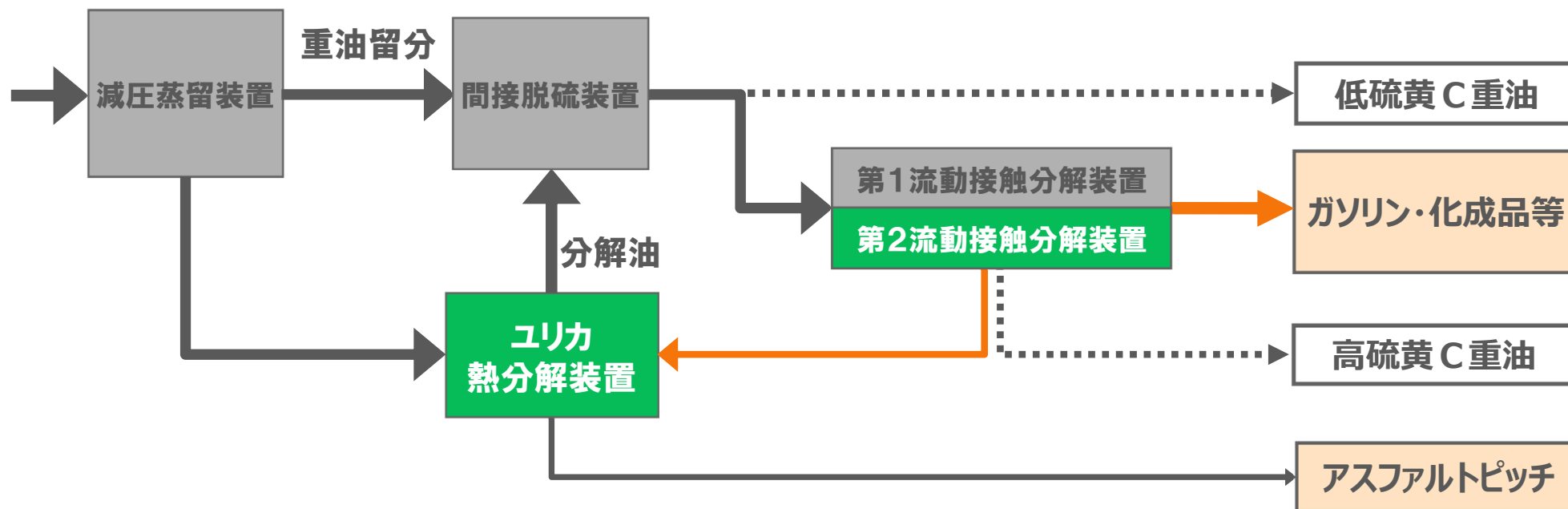
- 2017年 3月 ボイラー火入れ
- 4月 蒸気タービン負荷遮断試験
- 6月 ASP燃焼試験実施
- 8月 総合試運転ほぼ完了
- 第3四半期 本格稼働・引渡し





# 分解装置能力増強による一層の競争力強化 **FDC**

- 高度化法2次告示対応として、2つの分解装置の能力を増強
  - ・ユリカ熱分解装置(2017年3月末:30千バレル/日→33千バレル/日)
  - ・第2流動接触分解装置(2017年6月末:21千バレル/日→24千バレル/日)
- ➡ 需要が減少する重油留分を原料に、高付加価値製品の増産を可能に  
また、需要変動に応じたフレキシブルな生産体制をさらに強化
- 高度化法3次告示達成を見据え更なる減圧残渣油の処理増を目指す





**この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。**

**お問合せ先**

**IR・広報グループ 祖父江・山口まで**